

<p style="text-align: center;">東アジア労働経済論 Labor Economy in East Asia</p>	<p>(教員名) 李 捷生</p>	
<p>アジア・ビジネス研究分野 探求科目</p>	<p>講義科目</p>	<p>選択</p>
	<p>1 単位</p>	<p>2018 年度・前期</p>
<p>I 科目の主題 20 世紀末から経済情勢の変化に伴って、東アジア 3 国（日本・中国・韓国）の労働市場では、規制緩和政策が推し進められ、雇用の流動化と階層化が急速に進行してきた。本科目は東アジア 3 国の労働市場の構造変化の特質と相違点を各国成長方式の変化の在り方と関連しつつ考察する。</p>		
<p>II 授業の到達目標 東アジア 3 国の労働市場がどのように変化してきたのか、その変化は各国の成長方式と社会生活にどのような影響を及ぼしているのかを理解するようになる。</p>		
<p>III 授業内容・授業計画</p> <p>1. 授業内容 まず工業化の展開過程に即して、日本における労働市場の変容過程の特質を欧米と比較しつつ検討する。つぎに中国、韓国で展開される「新工業化」の在り方を踏まえ、労働市場の生成・変容過程の特質を日本と比較しつつ明らかにする。</p> <p>2. 授業計画</p> <p>第 1 回 概要と視角 第 2 回 欧米：工業化と労働移動 第 3 回 欧米：労働市場の原型と進化 第 4 回 日本：日本的労働市場の生成 第 5 回 日本：二重構造の特質と変容 第 6 回 日本：内部労働市場の展開 第 7 回 東アジア新興国の「新工業化」と労働市場 第 8 回 韓国：開発方式と労働移動 第 9 回 韓国：労働市場の構造変化 第 10 回 韓国：アジア NIES の相違点 第 11 回 中国：「世界の工場」と労働移動 第 12 回 中国：農村工業とインフォーマル組織 第 13 回 中国：政策転換と労働市場の変容 第 14 回 東アジア：労働市場改革の課題 第 15 回 総括</p>		
<p>IV 事前・事後の学習内容 事前に講義用資料の配布を通じて、専門用語等について事前に勉強しておく。事後には授業を通じて理解できなかったことを書面で提出し、次回の授業に回答を行う。</p>		
<p>V 評価方法 レポート（70 点）と平常点（30 点）によって評価する。</p>		
<p>VI 受講生へのコメント 事前に配布資料を予習し、専門用語などを理解するようにする。</p>		
<p>VII 教材 教科書は指定しないが、参考文献は講義時に紹介する。</p>		